

【学級経営再入門④】

学校再開後の学級経営

— 子どもたちの日常を取り戻すために —

新学期から学校が再開する。子どもたちは、学校再開の喜びと新学期に向けての期待感をもち登校してくるだろう。しかし、長期の臨時休業明けの新学期であり、新型コロナウイルス感染症のために、**教育活動に対する制限がある中で**の学校再開である。また、多くの子どもたちが約1か月にわたっての**休業でのストレス**をため込んで登校してくるだろう。したがって、学校が再開したといっても、学校生活や教育活動に様々な制限があり、子どもたちは、いつものように思いっきり学校生活を楽しむこともできない状態である。そして、その**不自由な状況から、様々な問題**も生じてくることが予想される。やはり、学校再開後は、いつもの新学期の学級経営に加え、**より一層子どもたちの状態を踏まえて、その状態に即した学級経営**の必要性がある。今回は、**学校再開後の学級経営**について考えてみたい。

1. 子どもウォッチング —子どもの状態を把握する—

新学期が始まり、再登校ができ、子どもたちは、久しぶりの登校に喜びと期待で胸をいっぱいに登校してくるだろう。しかし、しばらくの間、ほとんど家庭内で過ごしてきた子どもたちである。**授業や様々な集団的活動が中心という枠組みのある学校生活スタイル**にすぐに適応はできないだろう。また、登校により様々な友達との交流も生まれてくる。休業中、**家庭という狭い関係性**の中で過ごしてきた子どもたちにとって、**友達との交流は、楽しいこと**でもあるが、自分の思い通りにならないことも起きるために**ストレス**を感じることもあるだろう。そして、その**ストレスが友達との軋轢**に発展したりすることも考えられる。

そこで、まず新学期の学級経営で大切にしたいことは、**「子どもウォッチング」**である。**学級の子どもたち一人一人が、今どのような状態であるのかを的確に把握する**のである。その際、特に重要なことは、**微細な子どもたちからのサイン**をも見とることである。通常、目が行きがちになるのは、**目に見える形で現れる不適切な行動**であり、**それを起こしてしまう子どもたち**である。しかし、**心の問題は、目に見える形で現れるとは限らない**。以前とは異なる**子どもたちの様子や行動、その子の態度から感じられる微妙な違和感**なども見過ごしてはいけない。「子どもウォッチング」は、先入観にとらわれることなく、**学級のすべての子どもたちの状態に目を配る**必要があるのである。

【子どもウォッチングの10のポイント】

1	授業になかなか集中できずにぼんやりしていることが多かった。
2	授業中、不規則発言をしたり、私語をしたり、立ち歩きをしたりするなど、落ち着かない。

3	教師の指示にすぐ反応できない。グループ活動などにも消極的な参加態度である。
4	授業中、眠そうにあくびをしたり、居眠りをしたりすることが多かった。
5	必要な学習用具を忘れたり、宿題を忘れたりすることが多かった。
6	ケンカや口論など、対人関係のトラブルが増えた。
7	休み時間など、一人で過ごすことが多かった。
8	話す時など、視線が定まらなかったり、視線を合わせなくなったりするようになった。
9	不調を訴え、保健室で過ごすことが多かった。
10	物事の捉え方や話す内容がネガティブになった。

2. 話を聴く —心にその子のためのスペースをもつ—

【**どうしたの？まずは話を聴く**】 「子どもウォッチング」で、子どもたちからのサインを感じたら、まずは、**その子からじっくり話を聴く**ことが重要となる。その際、例えば、その子から発せられたサインが不適切なものであっても、叱責や注意が先ではなく、**「どうしたの？」**と声をかけたい。子どもから発せられるサインは、表面的なものであり、**そのサインの背後にあるものを探ることが重要**なのである。

【**心の中にスペースをもつ**】 子どもたちの話を聴く時に大切にしたい姿勢は、**「心の中にその子のためのスペース」**をもち、その子とじっくり向き合うことである。まずは、その子の話を遮ったり、否定したりすることなく、**その子どもの気持ちに共感したり、受容したり**しながら子どもたちの話にじっくり耳を傾ける。子どもたちから「辛い」「悲しい」「不安」など感情を表す言葉が出てきた時は、それにあれこれ言うのではなく、「辛いんだ」「悲しいんだ」と**伝え返す**。教師のこのような「聴く」姿勢が、子どもたちの**「話を聴いてもらっている（理解して）」**という思いを強くする。

【**開かれた質問**】 教師から問いかける時は、答えが「イエス」「ノー」だけの**閉じた質問**ばかりにならないようにし、できるだけ**開かれた質問**、「HOW」で聞く。言葉で伝えることが苦手な子には、**書かせるという手立**も考える。

【**一緒に考える姿勢**】 話をしっかり聴いてもらうだけで、気持ちを安定させる子どもたちもいるが、**話を聴いた後は、その子どもたちが悩んでいる問題についてどう解決していくか話し合っていく**。その際、大切なことは、子どもたちと**問題解決について一緒に考える**という姿勢である。子どもたちが解決方法を自ら考えたり、「こうしてみます」と判断したりできるように、子どもの思いや考えに寄り添いながら助言をしていくのである。

【**いつでも相談**】 最後に、**心配なことがあったら、いつでも、すぐに相談**すること伝える。このいつでもすぐに相談するということは、学級全体にも折に触れ伝えていく。

【**連携した対応**】 子どもたちと話した後は、**担任が対応できることは迅速に対応**する。担任だけで対応が困難な場合は、**管理職や他の教師と連携をとり対応**を進める。**保護者との連携**を強め、子どもたちにとってよりよい支援について共に考えていくことも重要になる。子どもたちの状態によっては、**スクールカウンセラー等の専門家**につないでいくことが必要になる場合もある。

### 3. 学級目標の共有とスモールステップでの取組

学校が再開した新学期、学級全員で目指したい理想の学級像＝学級目標を共有することを、今までに増して大切にしたい。それは、長い間、バラバラになっていた子どもたちの気持ちのベクトルを一つにするためである。そうすることにより、子どもと子どものつながりが強化され、そのつながりの強化は、「よし、新学期もみんなで頑張ろう」という子どもの前向きな気持ちを喚起する。そして、その「前向きに頑張っていこう」という気持ちは、これからどうなるのだろうかという現状に対しての不安感や様々な制約のある学級生活からくる閉塞感を軽減していこう。新学期のスタートにあたり、理想の学級像＝学級目標を共有し、その実現を目指し、みんなで協力して頑張っていくという枠組みをしっかりと子どもたちと確認していきたい。

学級目標が決まった後は、その学級目標を達成するために取り組むべき小さな目標を決め取り組んでいく。スモールステップを設定し、学級目標に迫るというフレームづくりを行うのである。小さな目標は、学級目標の達成のためには、どんな学級のルールが必要かという視点と学級の相互理解や関係性を深めるためにはどんな取組が必要かという視点で設定する。学級集団は、ルール（安心して生活するための基本的ルール）とリレーション（安心して本音を言い合えるような関係）のバランスを取ることで安定に向かって行くのである。

### 4. 可能な限り日課や習慣を保ち継続する

「困難や苦境からの回復力、復活力」のことを「レジリエンス」という。「レジリエンス」は、規則正しい生活と関係することがわかっているようである。やはり、リズムのある生活は子どもたちにとって心地がいいのではないか。そこで、新学期、規則正しい生活＝日常の学校生活を、それを子どもたちが自主的に遵守できるように促していく。したがって、新学期、子どもたちの状態がよくないからといって、何か特別なことに取り組むことは適切ではない。学習や活動への子どもたちの乗りは悪いかもしれないが、1日の学校生活のルーティンを淡々と行っていくことが重要である。その日のやるべき学習や活動を、朝の会で子どもに伝え、1日の学習や活動の見通しをもたせる。そして、朝からその予定通りに、時間通りに行っていくのである。それを繰り返すことにより、子どもにその生活リズムが定着してくる。学校の生活リズムは戻り、生活リズムが戻ると、子どもたちの気持ちも安定してくる。

### 5. 適度の運動やリラックスできる時間をとる

現在、密集、密接を避けることを強く言われている。そのために、教室で適度な運動や子どもがリラックスできるような活動に取り組むことは難しい。しかし、学習の合間などの隙間に、自席でできるストレッチや密集や密接を避けた簡単なゲームなどの適度な運動やリラックスできる活動に取り組むたい。呼吸法などのリラックス法を教え、一緒に取り組むことも有効である。少しゆったりと子どもたちに学校生活を送らせるために、学習や活動に追い立てるような詰めた計画を立てずに、ゆとりのある計画づくりにも心がけることも大切にする。また、子どもたちがほっと一息つけるのは、休み時間である。友達と一息つける中休み、昼休み、給食時間はしっかり確保していく。

### 6. 相手の立場に立ち、思いやりをもって行動する

感染拡大による不安から、「偏見」「いじめ」などの不適切な事案の報道をしばしば目にする。相手の立場に立ち思いやりをもって行動し、いじめられたり、辛い思いをしたりする人を出さないように指導することは、日常的に重要なことではある。しかし、上述したような不適切な事案が散見される現在、子どもたちには、絶対にやってはいけないこととして、新型コロナウイルスなどの感染症に罹ってしまった人やその家族の心を傷つけるようなことを言ったり、差別したりしないということ、また、ふざけや遊びでも「ウイルスに感染している」など、絶対に言うてはいけないことをしっかり指導していく。新学期が始まるにあたり、相手の立場に立ち、思いやりをもって行動することを学級全体に繰り返し価値付けをしていきたい。

### 7. なぜ予防が必要なのか 2つの視点で指導する

うがい、手洗いなどの「予防」については、これまでも子どもたちは、十分指導されている。しかし、再度、なぜ「予防」が重要なのか、その学年の発達段階を踏まえ指導したい。その指導で大切にしたいことは、「自分が感染しないため」と「他にうつさない、感染の広がりを防ぐため」という2つの視点があるということである。子どもたちへの指導には、この2つ視点で指導していく。

◎新型コロナウイルスには、免疫（ウイルスをやっつける力）をもっている人が少ないので、多くの人が感染しやすい。よって、自分自身が感染しないためにしっかり予防に取り組むことが重要である。◎高齢者やもともと何か病気をもっている人などは、このウイルスに感染すると肺炎という病気になって、入院しないといけなくなることがあり、なかには亡くなる人もいる。ウイルスの感染は、感染した人の鼻水や咳やくしゃみの時に出るしぶきにウイルスが入っており、それが直接かかったり、ドアノブなどについているのを他の人が手で触って、その手で口や鼻に触ったりすることで、感染が広がっていくことが多い。◎そこで、「自分が感染しない」ことだけでなく、「新型コロナウイルスの感染が広がっていくのを防ぐ」ために、皆で協力していくことが重要となる。皆で協力することで、助かる人がたくさんいる。予防は、自分のためであると同時にみんなのためである。

### 8. 正しい情報を得る 正しい情報を伝える

連日、新型コロナウイルス感染症の様々な報道がなされている。曖昧な状況で人々の不安が高い場合に、正確ではない情報が世間に広まりやすくなるという。子どもたちも、毎日、その洪水のような情報にさらされている。そして、それらの情報で不安感を高めている子どもたちもいる。そのような不安から、教室でコロナウイルスについて話題になったり、教師に対し質問が出たりすることがあるかもしれない。その際は、情報源が明らかな正確な情報を、子どもたちの不安感をあおることなく正しく伝えていくことが重要である。正しい情報を適切に伝えることで、子どもたちの不安も軽減させる。併せて不確かな情報に左右されないためには、情報源が明らかな正しい情報を得ることの重要性についても指導する。そのために、教師も日頃から、コロナウイルスについての国や自治体などからの情報をチェックし、正しい正確な情報を得ておくが必要である。